

○今津乃里子\* 中山徹\*\*

(\*奈良女子大・院, \*\*奈良女子大)

【目的】長くなった高齢期をどのように過ごすかによって健康で充実した生活を送ることができると思われる。時間的余裕ができた高齢者にとって余暇活動の充実による生活に影響が考えられる。本研究では高齢者の余暇活動の一つとして、自然環境の中でも特に緑とのふれあいに注目した。緑が存在する空間の他に緑とのふれあいを促進させるための必要な要素を明らかにし、緑とのふれあいを促進させる方法を検討した。

【方法】財団法人・大阪自然環境保全協会が主催する自然活動リーダー養成実践講座「大阪シニア自然大学」の平成11年度受講生130名を対象に意識調査を行った。

【結果】緑とのふれあいを阻害していた要因として、「時間的余裕がなかった」という個人的問題があげられている。しかしその一方で、「緑とふれあう方法がわからなかった」、「一人ではできなかつた」という問題もあげられている。人生経験豊富な高齢者といえども、緑豊かな空間が存在していても、その空間と接する方法をわかっていないことや共通の意識をもった仲間を必要としていたことが考えられる。そして、受講以前に希望していた緑とのふれあいに関して、自宅で行う個人的な緑とのふれあいだけでなく、自宅や自宅周辺を離れた空間での仲間をともに行う緑とのふれあいが望まれていた。これらの阻害要因を取り除くことと希望を満たすためには、緑と接するための学習・活動支援を行う団体や組織の存在が必要であり、また、緑と接するために共通の意識を持った仲間づくりを行うためにも、これらの団体や組織の存在が重要である。